

世界まちづくり紀行 *in Italy*



今号から世界の街並みを紹介していきたいと思います。今回はイタリアで有名な都市であるミラノ・ヴェローナ・ベネチア・フィレンツェ・ローマ・ナポリの街並みをご紹介します。

はじめにイタリアの人口は約 6,000 万人。国土面積は 30 万km²、地中海に面し南北に長く、国土の約 4 割が山岳地帯で、アルプス山脈やヴェスヴィオ山やエトナ山などの火山もあります。

高い山、田園地帯、都市など色々な風景に加え、食材も豊富で肉やチーズ、ハムをはじめ魚介類、色々なパスタやピザなど地域により違った料理が楽しめます。

イタリアの街づくりの歴史は古代ローマから始まりますが、特に中世期に各都市が貿易や工業・金融業等で繁栄しルネサンス文化が花開きます。そしてこれまで歴史的な遺産を守りつつ街づくりを行ってきた結果、建築物や街並みが世界遺産(60 件)に指定されるなど現在観光都市としても栄えています。

イタリアの地方行政機構は、20の州(regione)と、各州ごとに県(provincia)約100自治体、そして基礎自治体であるコムーネ(comune)約8,000自治体があります。州政府は広域都市計画を、県は大都市圏計画や地域調整計画を、そしてまちづくりの主体であるコムーネ(comune)は都市計画・地区計画の策定を担っています。

現在のイタリアの都市計画の特徴として、景観の保全が大変重視され、特に歴史的遺構の多い旧中心市街地には「歴史地区」が指定され、開発や建築行為への厳しい規制により近代的な建築物への建て直しは難しくなっています。また国土全体で景観計画の策定が義務化され、国土の約5割の海岸部や山岳・田園地帯・都市部において地域指定がなされ、景観の保全が図られています。

一方、都市の近代化も進められ、新たな住宅の建設や工業・商業・業務等の都市機能の立地を図るため、高速道路や新たな幹線道・地下鉄などの建設、市街地の再開発や郊外部の新しい市街地整備が行われています。



《都市基本計画・マスタープラン(コムーネ決定)》

- ・道路網・鉄道網・海上交通網と交通施設の配置
- ・土地利用計画(ゾーニング図)と規制
- ・公共施設・公共住宅等の配置
- ・歴史・環境・景観保全の地域地区と規制
- ・マスタープラン実現のための規制

《地区計画(コムーネ決定)》

- ・道路・公園・緑地等の公共施設の配置
- ・地区計画区域の建築形態・意匠等の規制
- ・主要な道路・広場に面する建築物の規模・高さ

《旧市街地の街並み》



ミラノのガッレリア(商業施設)
ガラス張りのアーケード



世界遺産ヴェローナの街並み
石畳の歩行者専用の小路



水の都ベネチアの街並み
車は入れず gondola が人々の足



ベネチアのアーケード街
サン・マルコ広場



フィレンツェの街並み(ルネサンスの中心都市)
サンタ・マリア大聖堂を越えない屋根の高さと統一された色彩



ローマのコロッセオ(ローマ歴史地区)



バチカン市国 サンピエトロ大聖堂



ローマの旧市街地 ヴィットリオ二世記念堂



豪華なバロック彫刻のトレヴィの泉



スペイン大使館前のスペイン広場



ローマの休日で有名なスペイン階段



色鮮やかな美しいナポリの街並みと海岸線



世界遺産アマルフィー海岸

《 新しい市街地開発・再開発 》



ミラノ郊外の住宅団地
商業施設・幼稚園・集合住宅の複合開発



ミラノの再開発 ポルタ・ヌオーヴァ地区
商業・業務ビル・集合住宅・公園



集合住宅の緑化（垂直の森）
ミラノポルタ・ヌオーヴァ地区



ミラノの再開発 シティー・リフェ地区（商業・業務複合開発）
イタリアには少ない高層ビル地区